

令和7年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 1年生

1 日常の学習状況について

学習に意欲的な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。また話し合い活動にも積極的に取り組み、互いの考えを共有し学習を進めることができる。観察の授業や予想による実験の取り組みに対しては、興味・関心をもち、前向きに取り組んでいる。またノートの作成についても多くの生徒が板書を工夫して書き写すことができている。課題等の提出状況は良好であるが、復習に十分に時間をかけて定着を図れる生徒は少ない。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

3つの単元を週に1時間で進めていくため、問題演習を通して定着の振り返りをする時間をとることが難しかった。理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をともなう問題や数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記問題等は正解率が高かった。課題を読み取る力・解決する力が不十分である。文章理解、問題解決能力の向上を身に付ける授業展開を導入していく。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。
- (2) 授業内での学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低く、再度復習が必要である。
- (3) 「なぜそうなるのか」を聞く質問に対して説明することなどが苦手な生徒が見られる。説明に対する苦手意識を減らすため、一つ一つの質問に丁寧に答えさせ、自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題

- (1) ワークの提出などをこまめに行うなどして一回に覚える量を減らし、何度も繰り返し勉強する習慣を付けさせる。
- (2) わかりやすい説明や指示、取り組みやすい課題によって注意が散漫にならないようにすること、一人一人が実験の予想や考察など、考える場面を積極的に設定していくことが課題である。

5 改善の計画

- (1) 知識の定着に対する意欲が低い生徒が多くいるため、授業内で適時演習を行い、一回に覚える量を減らし何度も勉強する習慣をつけさせる。
- (2) 実験装置の取り扱いは、実験操作時での説明及び定期考査に出題し、実験技術の向上を図る。
- (3) 授業内のプリントや定期考査など、記述内容を増やし、論理的な文章力を高めていく。
- (4) タブレットを授業内で活用し、デジタル教科書等を積極的に使用していく。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。
- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。

令和7年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 2年生

1 日常の学習状況について

意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。また積極的に挙手し発言を行うことができる。教師の一方的な授業にならないよう、生徒との会話を通じて共に学んでいくスタイルの授業を展開している。提出物の提出状況も昨年度よりも良好になった。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

小テストを用いることで定着の振り返りをする時間をつくることができたが、理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をともなう問題や数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記すべき物や一般的な問題については正解率が高かった。課題は読み取る力・解決する力の2項目である。文章理解、問題解決能力の向上を身に付けるための授業展開を導入していく。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。
- (2) 最近学習した学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低く、再度復習が必要である。
- (3) 授業の事象について「なぜ？」の質問に対して説明することなどに不安がある生徒が少々見られる。
説明することに対する苦手意識を減らすため、一つ一つの質問に丁寧に答えさせ、自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）◎そう思う ○ややそう思う

- ①授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。 (◎94.7% ○5.3%) ◎+○=100%
- ②授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 (◎92.1% ○7.9%) ◎+○=100%
- ③授業内容の指示、説明が分かりやすい。 (◎89.5% ○10.5%) ◎+○=100%
- ④意欲的に取り組めるような授業になっている。 (◎88.9% ○11.1%) ◎+○=100%
- ⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。 (◎87.9% ○11.1%) ◎+○=99.0%

- (1) ③の結果から、すべての生徒にとってわかりやすい指示ができていないことがわかる。
- (2) ④の結果から、意欲的に取り組めていない生徒がおり理科に対する苦手意識があると考えられる。
- (3) ⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。

5 改善の計画

- (1) 実験の手順の説明の際、パワーポイントなどで写真を提示したり、手順を表で表したりして、わかりやすい指示を出せるよう工夫する。
- (2) 体験的な活動を多く取り入れ、座学が苦手な生徒の興味関心を引き立てていく。
- (3) タブレットを授業内で活用し、ロイロノートやスタディサプリ、Googleworkspace、デジタル教科書、Phet（シミュレーションソフト）を積極的に使用していく。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。
- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。
- (3) スタディサプリなどを活用し、知識の定着度をはかる。

令和7年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 3年生

1 日常の学習状況について

多くの生徒は興味・関心は高く、意欲的に授業に取り組んでいる。

授業の展開としては、単元ごとの学習課題を認識させてから、観察・実験を行い、結果を基に思考するという流れを基本に実施している。ノートの作成についても多くの生徒が板書を工夫して書き写すことができている。学力の定着を図るため、単元ごとに小テストに取り組んでいる。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

小テストを用いることで定着の振り返りをする時間をつくることができたが、理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をとまなう問題や数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記すべき物や一般的な問題については正解率が高かった。課題は読み取る力・解決する力の2項目である。

「黒板やプリント・機器の効果的な活用」については実験の動画を見て手順を復習する等効果に取り組んでいる。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。
- (2) 最近学習した学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低く、再度復習が必要である。
- (3) 「なぜそうなるのか」を聞く質問に対して説明することなどが苦手な生徒が見られる。説明に対する苦手意識を減らすため、一つ一つの質問に丁寧に答えさせ、自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）◎そう思う ○ややそう思う

- ① 授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。 (◎79.7% ○18.0%) ◎+○=97.7%
 - ② 授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 (◎82.0% ○15.2%) ◎+○=97.2%
 - ③ 授業内容の指示、説明が分かりやすい。 (◎69.3% ○24.7%) ◎+○=94.0%
 - ④ 意欲的に取り組めるような授業になっている。 (◎71.8% ○24.5%) ◎+○=96.3%
 - ⑤ 板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。(◎71.4% ○22.6%) ◎+○=94.0%
- (1) ③の結果から、すべての生徒にとってわかりやすい指示ができていないことがわかる。
- (2) ⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。

5 改善の計画

- (1) 実験の手順の説明の際、パワーポイントなどで写真を提示したり、手順を表で表したりして、わかりやすい指示を出せるよう工夫する。
- (2) 実験観察の授業では、使用する薬品等も多様化しているので安全面に配慮した指導を実践する
- (3) タブレットを授業内で活用し、デジタル教科書等を積極的に使用していく。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。
- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。
- (3) スタディサプリなどを活用し、知識の定着度をはかる。